

昭和18年
8月12日 福島縣會津地方の強震概報

福島測候所

8月12日14時30分中央氣象臺の發表によれば12日13時51分頃關東地方の大部分、中部地方の東部及び東北地方の南部に亘り輕微な地震を感じた。震源は福島縣南會津郡田島町附近で各地の震度は次の通り、

弱震： 白河、筑波山

輕震： 前橋、小名濱、高田

微震： 宇都宮、熊谷、長野、秩父、東京、横濱、濱松等

であつた。

福島縣警防課に達したる被害程度は、12日13時50分現在として次の如し、被害の最も多かつたのは大沼郡尾岐村で高田警察署管内重傷1、輕傷2、馬負傷1、土藏龜裂760棟（損害高16320圓）、土藏壁落193件（損害高11,900圓）、住家壁落5戸、陶器破損1,200圓、道路陥没入里2里（600圓）、縣道8里10間（500圓）、損害高總計37,515圓、この外に檜原村の製炭窯若干崩潰、畑田、江川、伊南、大川各村窯若干崩潰、旭田、江川兩村の井戸、溫泉湯は變色、又落石、土砂崩れが各村にあつた。

大沼郡沼澤村沼澤沼湖畔に延長30間深さ1尺6寸、砂地が崖崩れの如く崩れ墜ちた。當時同村加藤孝一氏は湖畔に居り沼澤沼對岸にある山の崩れたのを見たのに、砂煙を立て一時は噴火したものと驚いた。又湖底の塵が浮上り魚が姿を消したが、後再び平常に復した。湖底には地變がない見込である。

河沼郡坂下町會津農林學校では飼育中の牛が地震の爲顛倒した。大沼郡沼澤村太郎布附近の墓石は南向きに倒伏した。

南會津郡田島町國民學校長住宅の壁は3坪落下した。地盤が軟弱なる爲と考へられる。その附近では被害が少かつた。

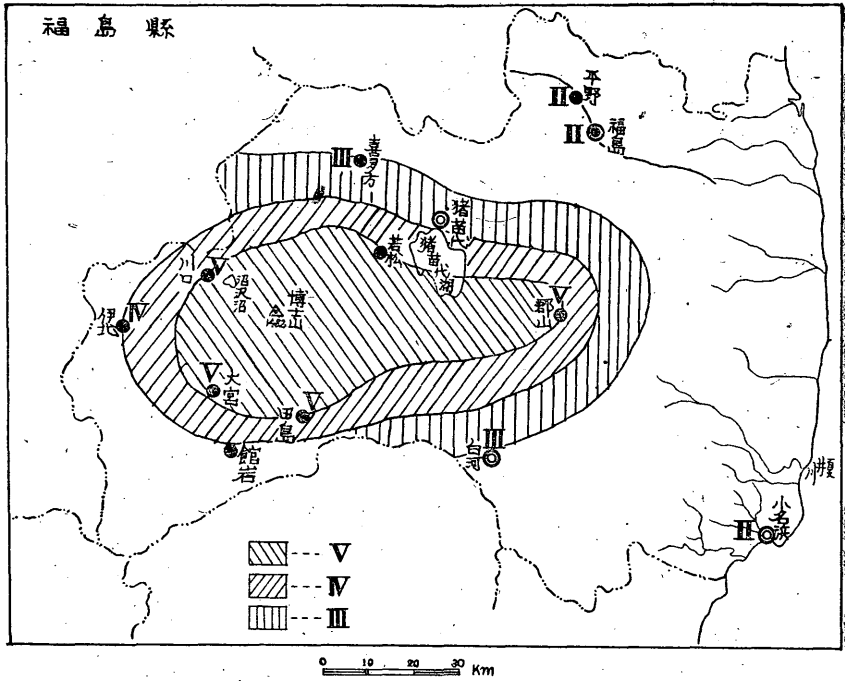
（以上9月13日、井出技師調査）

大沼郡高田町に於ては當時防空演習にて龜山知事が視察中であつたが家屋動搖、壁落下の狀況を目撃された。同町では壁の落ちた所や、墓石、石燈籠の倒れたのは僅かであつたが8月末まで餘震10~20回を感じた。

高田署管内尾岐村では被害多く、博士山、大瀧山等は道路の破損、山崩れ等あり、博士山では、2丈位の岩石が顛落したが、人畜には被害が無かつた。

松倉一帶の炭窯は全部破損したが20日間にて修理された。附近の道路は崖崩れの爲埋没したが一旦修理し其後8月28日頃の地震にて再び崩壊した處がある。（以上9月27日、佐藤（良）技手調査）

福島測候所の調査に依れば、發震時刻は8月12日13時50分52.1秒、初期微動時間7.5秒、最大動振幅は南北1,800 ミクロン、東西 2,100 ミクロン、初動の方向はWSWの下動で、推定される震央距離は90軒であるから、南會津郡田島町や大沼郡沼澤村附近がその距離にあるが、初動方向



第一圖

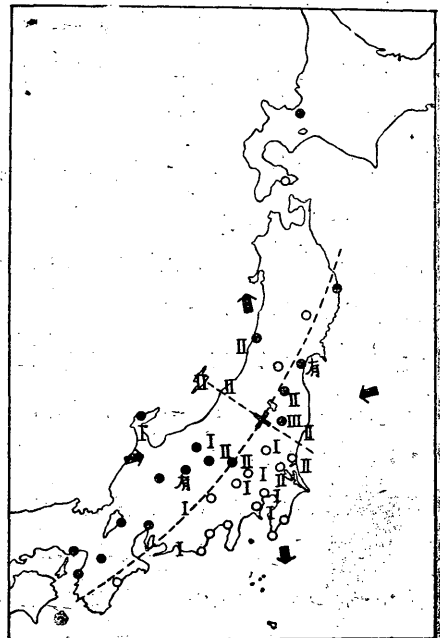
や被害分布等より見て博士山附近が震源と思はれる。之は又区内観測所の報告に基く等震度圖（第一圖参照）からも裏書きされる。

補註（中央氣象臺地震課）

先に8月12日14時30分發表にて震源を田島町附近に暫定したが、其後各地の精密な観測報告が集まり、之により決め直した所では福島測候所の推定と略一致し、東經139.°7~139.°8、北緯37.°3~37.°4にて大體博士山から大瀧山附近に當り、震源の深さは極めて浅く10軒を越えまいと思はれる、（詳細な観測材料は氣象要覽、昭和18年8月號参照）

又初動の観測より節線を定めると第二圖の如くなる。酒田の初動と札幌の初動はおかしいが、前者は餘り確かでないものとの報告になつて居り、後者は震央距離が遠き關係で第一動が明瞭でなかつたものと思はれる。

餘震の機構も皆同一と思はれ（氣象要覽上掲参照）震央の比較的よく決まるものは主震の震央より西側のが多いやうで深さは0~40軒位までである。



第二圖